

QUOROM 声明によるメタアナリシス論文を投稿する際のチェックリスト¹⁾

(本チェックリストは、著者、編集者、査読者が、メタアナリシス論文中に必要な情報が入っていることを確認するためのものである)

第1 著者名		論文タイトル名	報告し たか? (Y/N)	原稿の 何頁 に?
見出し (Heading)	副見出し (Subheading)	記述項目 (Descriptor)		
タイトル	Title	1. 「メタアナリシス」もしくは「システマティックレビュー」のことばを含む。	_____	_____
抄録	Abstract	2. 構造化抄録を用いる。	_____	_____
	目的 Objectives	以下を記述する。 3. 臨床的疑問を明示的に。	_____	_____
	データ源 Data sources	4. データベース (リスト) と他の情報源。	_____	_____
	レビュー方法 Review methods	5. 選択基準 (研究対象集団、介入、アウトカム、研究デザイン)、妥当性評価、データの抽象化、研究の特性、各方法。再現を十分に可能とするような、定量的なデータ合成法。	_____	_____
	結果 Results	6. 組み入れられたRCTと除外されたRCTそれぞれの特性。定性的・定量的知見 (点推定値と信頼区間)、サブグループ解析。	_____	_____
	結論 Conclusion	7. 主たる結果。	_____	_____
はじめに	Introduction	8. 明示的な臨床的疑問、介入で行う生物学的合理性、レビューの合理性。	_____	_____
方法	Methods	9. 詳細な情報源 (データベース、登録、個人のファイル、専門家からの情報、機関、ハンドサーチ)、制限 (対象とした年、出版の状態、出版言語)。	_____	_____
	選択 Selection	10. 組入れと除外基準 (研究対象集団、介入、主たるアウトカム、研究デザイン)。	_____	_____
	妥当性評価 Validity assessment	11. 用いられた基準とプロセス (マスク法、質評価、その結果)。	_____	_____
	データの抽象化 Data abstraction	12. 用いられたプロセス (独立して、二重に行う など)。	_____	_____
	研究の特性 Study characteristics	13. 研究デザイン、被験者の特性、介入の詳細、アウトカムの定義、など。臨床的異質性がどう評価されたか。	_____	_____
	定量的データ合成 Quantitative data synthesis	14. 主たる効果指標 (リスク比など)、結果の併合法 (統計学的検定と信頼区間)、欠測値の処理。統計学的異質性がどう評価されたか。感度解析と層別解析について事前の設定根拠、出版バイアスの評価。	_____	_____
結果	Results	15. トライアルの流れをまとめるメタアナリシスのプロフィールを示す (図参照)。	_____	_____
	研究の特性 Study characteristics	16. それぞれのトライアルの特性を記す (年齢、症例数、介入内容、用量、介入期間、追跡期間など)。	_____	_____
	定量的データ合成 Quantitative data synthesis	17. トライアルの選択や妥当性評価の一致度。単純なまとめの結果 (各トライアルでの各治療群、各主要アウトカムについて) ITT 解析に用いられる効果サイズと信頼区間を計算するために必要なデータ (2x2 分割表、平均とSD、割合など)。	_____	_____
考察	Discussion	18. 主たる知見のまとめ。内的・外的妥当性にもとづく臨床的推論。入手可能なエビデンス全体のなかでの結果の解釈。レビュープロセスにおいて可能性のあるバイアス (出版バイアスなど)、将来の研究テーマの提案。	_____	_____

1) Moher D, Cook DJ, Eastwood S, et. al. Improving the quality of reports of meta-analysis of randomised controlled trials: the QUOROM statement. The Lancet 1999; 354: 1896-900